

産廃は一貫処理で行い、 信頼される企業努力を。



杉原社長

有限会社海青建材

(愛知県瀬戸市)

愛知環状鉄道が走る瀬戸口駅の目の前にこの4月に新設した海青建材営業本部で、代表の杉原社長にお話を伺いました。

—社長はアメリカ留学をされたそうですが、どのようなことを学ばれたのですか。

杉原社長（以下杉原に略）『環境土木工学の分野を学びました。水質と構造物の研究です。その結果、構造物の方を選び、コンクリート橋梁設計の仕事を向こうでしていました。父に代わって当社の経営に携わって3年半くらいです。』

—そうしますと自ずと産廃の仕事にもアメリカ風の考え方が反映しているのでしょうか。

杉原『みんなに愛される業者になりたいですね。この職に就く頃、同級生の集まりなどで「今度産廃をやるんだ」と言うのと、「あ、産廃屋か」と言われたんですね。正直言って腹が立ちました。みんなはそんな風にしか見ていなかったんですね。社会の要求はあるんですから、その時以来、みんなに愛されなきゃいけないなあと思っています。信頼されるためには業績です。当社は収集運搬、中間処理、最終処分と一貫して行っています。産廃には流れがありますから一貫してやっていると難しい面があると思います。マニフェストをコンピュータで管理して、リサイクル率を上げるといったことは企業努力で出来るものです。これはアメリカの発想では当然のことなんです。やっとひとつの流れができましたので、これからが大切ですね。幸い、瀬戸という土地柄のせいで、タイルや瓦の原料へのリサイクルに回す効率も高い方だと思います。純粘土さえ余っている現状ですから100%リサイクルというわけにはいきませんが、なんとか効率よく回るよう努力しています。すぐには

華が咲かなくても、5年後、10年後を見据えて一生懸命がんばっています。』

—話は変わりますが、趣味とありますか。

杉原『やっぱりゴルフですね。アメリカでずっとゴルフばかりやっていました。現在ハンデ9です。大体月3~4回行きます。打ちっぱなしも週2回、暇があれば毎日でも行きたいんですが。コンペとかが近づくとわくわくしますね。』

—常に思っている信条は何でしょうか。

杉原『毎日の努力を怠らない。それを継続していかなければならない。何にしても継続ですね。縁あってはじめた仕事ですから継続の中から信頼も生まれ、企業としても成長していくと思うんです。』



社名/有限会社海青建材 所在地/愛知県瀬戸市瀬戸口町111 代表者/杉原盛秀
創業/昭和64年 従業員/20名 TEL/0561(87)3933
事業所/本社、常滑支店
営業種別/収集運搬、中間処理、最終処分
取扱品目/汚泥、建設廃材、ガラスくず・陶磁器くず